



永平寺、門前町の文化資源（その1）

永平寺神楽の紹介

永平寺神楽は、今より100年程前に毎年お盆に伊勢から訪れる伊勢大神楽を門前の矢野茂由さんが見様見真似で覚えて、当時の若者たちに教えたのが始まりでした。この神楽が盛んになったのは、当時の大本山永平寺64世森田悟由禅師(明治30年～大正4年)の時代です。また、昭和初期には、歌舞伎を公演するまでになったそうです。

秋祭りや正月には神社に奉納し、また、集落の祭りやイベント等でも神楽が舞われていましたが、昭和50年頃より青年も少なくなり、次第に永平寺神楽も舞われなくなってしまいました。

それで、かつての神楽仲間を中心に永平寺神楽の復活を呼びかけ昭和60年に「永楽会」と称し、永平寺神楽を復活、永平寺町の伝承芸能に指定されました。現在では、後継者も増えつつあり、この永平寺神楽を門前の宝物として後世まで保存していきたいと思っています。

